

中学校運動部活動に関する研究～外部指導者の役割に着目して～

A study of a club activity in junior high school: focusing on the role of external leaders

1K06B165

指導教員 主査 友添秀則先生

中森 翔

副査 吉永武史先生

1, 本研究の動機

私は、大学三年から現在まで練馬区の中学校で陸上競技部の外部指導員をしている。クラブチームなどの私的な場でなく、学校教育という公的な場の中で、教育の現場ならではの経験ができた。また、それらの経験を通じて、うれしかったことや考えさせられたこと、勉強になったことが多々あった。外部指導員という立場は、教員でなくとも学校教育に携わることができること知り、教育に対する興味や関心が一層深まった。しかし、外部指導員としての自らの実際の指導が上手くいっているかといえば、必ずしもそうはいえない。技術的な面はもちろん、教育的な面でも、自分の理想とはかけ離れているように思う。卒業式で卒業生のご両親から「お世話になりました」という言葉を戴いたが、それに見合うだけの指導や関わり方ができていたのか、確信が持てないでいる。また、指導をする上での顧問との関わり方についても適切であるかどうか疑問に感じることがある。そのように考えたとき、そもそも外部指導者の役割とは何だろうかという疑問にたどりついた。つまり、学校部活動と外部指導者に関する制度をめぐる議論の中で、外部指導員はどのような位置に置かれ、何を期待されてきたのか、それらは実際の外部指導員のあり方あるいは外部指導員と学校部活動との関係にどのように影響しているのかという問題である。本研究においてこれらの問題について考察し、これからのより良い指導に生かしていきたいと考えた。

2, 本研究の目的

本研究では、まず中学校運動部活動の歴史を明らかにし、次に外部指導者の現状や課題を明らかにする。そしてそれらを明らかにした上で、外部指導者のあり方や役割を見直し、これからの外部指導者のあり方に提言をするのが目的である。

3, 研究方法

第1章では、本研究で取り扱う中学校運動部活動について把握するため、文献資料により、その歴史を概観する。第2章では、外部指導員の現状と課題について、実例をふまえ、文献資料や当時の文部省をはじめとする公的機関の取り組みなどから、外部指導員の現状と問題を明らかにする。第3章では、第2章での問題点を解決すべく、提言を行う。

4, 各章の概要

第1章では、戦後の中学校運動部活動の歴史について概観した。中学校運動部活動は教育的価値を持ちながらも、一貫して教育課程外に置かれ、様々な問題を抱えながら現在に至っている。

第2章では、外部指導者の実態とその課題について明らかにした。外部指導者は部活動に生じている問題解決策の1つとして導入され、現場では技術指導の他、生徒集めや地域クラブ化に利用されている。課題としては 制度に関する課題 人材の確保 外部指導者と顧問の関係

外部指導者と生徒の関係の4つを挙げ、考察を加えた。

第3章では、第2章で明らかにした実態をもとに、外部指導者の役割やこれからのあり方について考察と提言を行った。外部指導者の役割はあくまで顧問の指導を技術指導などで補助する点にある。また、部活動の位置づけの明確化と全国で統一された外部指導者制度の制定をするべきという提言をした。

結章では、本研究の要約と今後の課題について記した。今後の課題として、外部指導者に関する調査研究が少ない点、部活動の位置づけの明確化が困難である点をあげた。